

## 【活動レポート】6/3 VOLAS 学習会「想いをカタチに 地域との協働実践—学生時代、社会人としての関わり」



今回は、数々のボランティア経験やイギリスでの修士号取得を経て、飲料メーカーのCSV部門で東北のまちづくりの仕事をしている、四居(よついで)美穂子さんのお話を聞く機会をいただくことができました。今回のお話で一番印象に残ったのは、一つの軸をぶれずに持ち続ける大切さです。四居さんの場合はそれが「発信」するというように私には思えました。

四居さんが日系ブラジル人支援のための団体を大学時代に立ち上げた時のエピソードでは、日系ブラジル人の子どもたちを対象に理想の家を考えて前に立って話してもらおうという試みを行ったそうです。全然話してくれなかった子が恥ずかしがりながらも、自分の言葉を持ち始める様子を話してくださいました。活動や日系ブラジル人のことなどを新聞やポスターのような目に見える形にして「発信」することも活動の重要な要素だったというお話を聞きました。



活動や日系ブラジル人のことなどを新聞やポスターのような目に見える形にして「発信」することも活動の重要な要素だったというお話を聞きました。

イギリスでの修士課程では、東日本大震災の被害を受けた東北地方をフィールドに、地域住民の結びつきに関して研究された経験をお持ちです。その時も成果をきちんとアウトプットをしようと、論文をオンラインジャーナルに掲載されており、今誰でも読むことができるようになっています。

また、今回もそのこのような経験を忙しいお仕事の合間を縫って私たちに共有してください。四居さんの「発信」する姿勢は一貫して変わらない印象を受けました。ボランティア活動、仕事、研究などを問わずこのような軸を自分の中でぶらさずに持ち続けることは容易なことではないかもしれませんが、私も少しでも変わらない一貫した姿勢を保っていけたらと考えさせられました。

(国際社会学部フィリピン語専攻4年 木田みのり)